

**IDEC 株式会社**  
**2026 年 3 月期 上期決算説明会 質疑応答要旨**  
(2025 年 11 月 7 日開催)

**Q. 2Q の受注高は回復しているように見えるが、3Q、4Q と回復傾向が続いていくのか。**

A. 受注高は流通在庫の正常化に伴い、各エリアで徐々に回復傾向となっている。

EMEA は 1Q に落ち込んだこともあり、2Q は 1Q 比で回復しているものの、欧州の経済状況が抜本的に良くなっているわけではないため、そこまで強い状況ではない。特殊車両業界が落ち込んでいたが、徐々に案件が増えて受注の回復につながっており、下期以降に今以上悪化するとは見ていない。

その他業界についても、大きな見通しの変更はない。流通在庫の正常化に伴い、受注が回復傾向となっており、下期もその状況に変わりはない。

**Q. 2Q に営業利益率が 12.4% に大きく上がってるが、一時的な要因があるのか。**

この高い利益率を、今後も維持できるか。

A. 1Q は米国のロジスティクスセンターの立ち上げ遅れの影響があったため、想定よりも売上が減少したが、その分を 2Q に回復したため、この売上回復分が特殊要因として含まれている。2Q 以降も受注は回復傾向であり、業績は安定的に推移していくと想定している。

**Q. 通期計画を据え置いているが、下期にリスクを予想してるのか。**

下期の計画が保守的な理由はあるか。

A. 1Q の米国ロジスティクスセンターの立ち上げ遅れと 2Q の回復という特殊要因が含まれているが、全体として 1Q から 2Q にかけて回復傾向となっており、下期に大きく落ち込む想定はしていない。  
まずは通期の予想を達成していく。

**Q. 上期と比べて下期に増えるコストはあるか。**

A. 米国の売上は堅調に推移しており、計画でも大きく投資をして成長を見込んでいることから、方針に変更はない。  
一方、構造改革の一部として前期にグループ会社の株式譲渡や、セカンドキャリア支援制度の拡充を行っていることから、下期にコストの減少を見込んでいる。  
成長市場への投資は下期の方が増えるが、固定費の削減があるため、トータルとして大きく変わる想定ではない。

**Q. 下期で伸びる分野、エリアは。**

A. 中国と米国は比較的安定しており、受注も堅調に右肩上がりとなっている。  
中国はインフラ系、米国はデータセンター向けの分野が伸びている。  
伸びている分野に集中し、受注を確保するように活動している。

**Q. 現在推進中の改革プロジェクトによって、プラス効果が出ていることはあるか。**

A. 社内でいくつかの改革プロジェクトを同時推進しており、今回はその中から3つ紹介した。

サプライチェーンについては、グローバルでどのように運用すれば、最もリードタイムを削減し、在庫効率を向上できるかをゼロベースで検討している。今よりも20-30%は在庫を減らすことができると考えている。

開発に関するプロジェクトでは、開発プロセスを変えたため、重要な開発プロジェクトにリソースを割くことで、スピードアップさせることができている。

**Q. 米国の関税や為替は、どの程度業績に影響しているのか。**

A. 上期業績に、関税の影響として4億円程度売上に含まれている。

為替については、ユーロに対して円安となっているため、売上に4億円程度影響している。

**Q. 棚卸資産が増加しているが、今後の見通しについて。**

A. 欧州の景気動向や、関税による需要の変動といった不安定な外部環境の要素で、需要予測とのギャップがあった。また、今後の需要拡大に向けて供給量を増やしていくために、在庫を確保していくことも想定しているため、棚卸資産に影響が出ているが、今後需要が回復していく中で計画的に消化していけると考えており、期末に向けて安定して減少していくと想定している。

以上